

2019年 9月 24日

野生鳥獣・獣害の現状

京都産業大学 現代社会学部 木原ゼミ
学生証番号:750567
氏名:大澤 穂高

<要旨> (200~250 字程度)

現代社会において人口減少や少子高齢化は、非常に重大な社会問題である。その問題により獣害問題も深刻になりつつある。イノシシやシカ、ハクビシンといった野生鳥獣は、農作物を荒らす事だけでなく、空き家を巣にしたり、車や電車と衝突事故を起こしたりと地域住民の生活の障害になっている。その中で猟師は獣害駆除や個体数調整、秋から冬にかけて狩猟をしている。しかし人口減少や少子高齢化に伴い、猟師の数は減少している。このレポートでは野生鳥獣の課題と猟師の現状の現状を記していきたい。

キーワード:

- ・野生鳥獣の課題
- ・獣害対策
- ・猟師の現状

1. はじめに

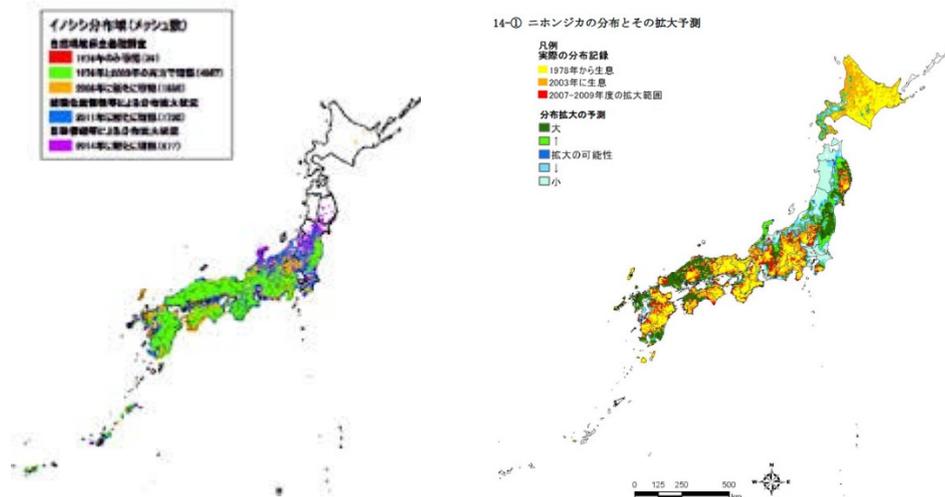
このレポートでは、野生鳥獣の被害・課題と猟師の現状を記している。

2. 野生鳥獣の課題

野生鳥獣の被害が深刻化している要因は、生息地域の拡大、猟師の数が減っていくことによる捕獲圧の低下、耕作放棄地の増加があげられる。

(1) 野生鳥獣の生息地域の拡大

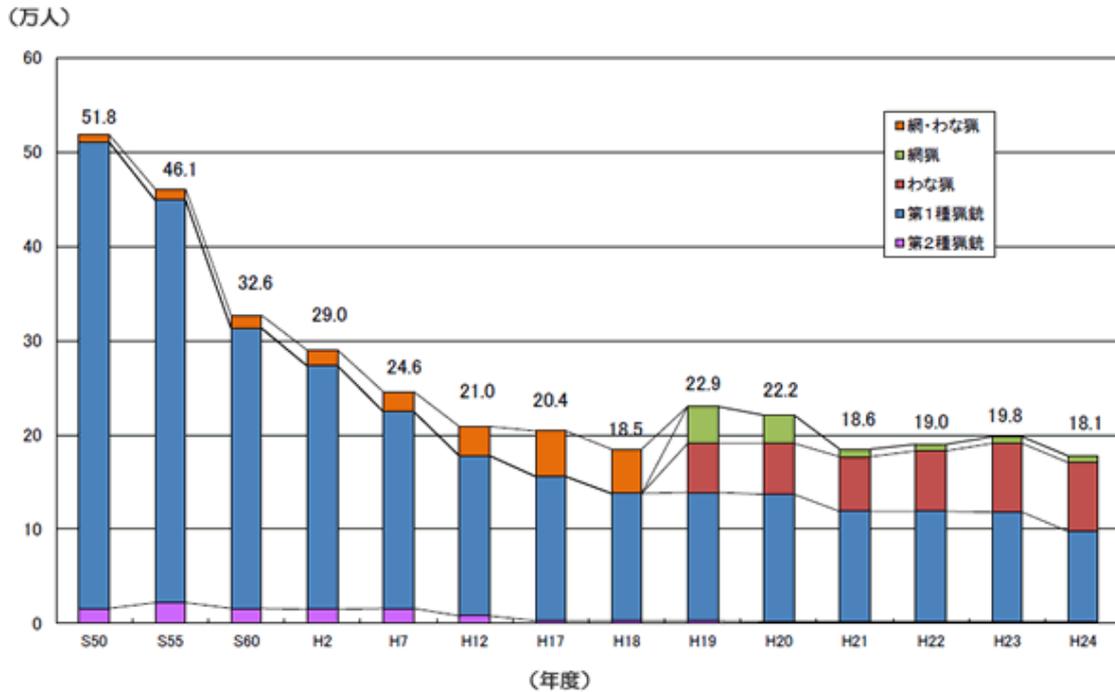
ニホンジカは昭和 53 年度から平成 26 年度までの 36 年間で生息分布が約 2.5 倍に拡大。イノシシは昭和 53 年度から平成 26 年度までの 36 年間で生息分布が約 1.7 倍に拡大している。



(出典:全国のニホンジカ及びイノシシの生息分布拡大状況調査(環境省))

(2) 猟師の数の減少

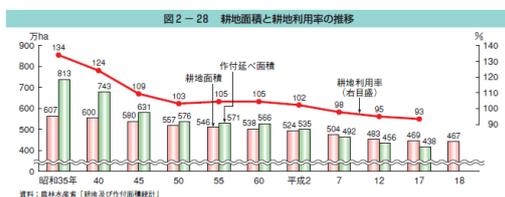
昭和50年では全国の猟師の数はおよそ 51.8 万人であったが、平成24年にはおよそ18.1 万人と 35 年間で 6 割も減少しているその中で罾や網を使わない猟銃と空気銃をつかう猟師は 10 万人であり、ほとんどが猟師である。



(出典:種別狩猟免許取得者数(環境省))

(3) 耕作放棄地の増加

グラフを見ると耕地面積と耕地利用率は減少している。要因としては、高齢化や労働力不足、土地条件が悪いが挙げられた。



○ 耕作放棄地が増加している主な理由 (地域類型別にみた回答割合)

発 生 要 因 (複数回答)	全 国	都市的 地 域	平地農業 地 域	中間農業 地 域	山間農業 地 域
土地条件が悪い	47.3	28.8	41.0	59.9	60.2
高齢化・労働力不足	86.0	87.3	84.0	87.2	85.6
道路条件等が悪く道作 不便	33.9	28.4	35.0	37.8	32.0
鳥獣害の被害が多い	9.4	3.6	1.8	11.1	27.1

出典:全国農業者会議所「遊休農地の実態と今後の応用に関する調査」(平成10年)

3. 猟師の現状

さきでものべたとおり猟師の数は、高齢化や人口減少により次世代の担い手がいないため減少しているのが現状である。また、市から委託で獣害駆除や個体数調整として狩猟を行うが、道具や餌などの費用に出費がかさんだり、捕れた野生鳥獣の処理に手間を取られる。秋から冬にかけて狩猟期間として免許保持者は自由に狩猟できるが、保健所の認可がおりた食肉処理施設場で処理をしなければ、衛生面の問題で販売することはできず、猟師の自家消費か埋設するだけである。準備や販売できない問題により生活面にも支障をきたし、猟師が減少していつてしまっている。

4. おわりに

現代社会において、野生鳥獣の数は増加している一方で猟師の数は減少していることが分かった。これから少子高齢化や人口減少が進んでいくにつれ、この問題はより深刻化すると考える。またこれまで猟師によって守られてきた人間の住む環境と野生鳥獣の住む環境が乱れ、現在のきれいな街並みや里山も荒らされていくだろう。そうなる前に対策をしていかなければならないと感じた。

<参考文献>

- 1) 全国のニホンジカ及びイノシシの生息分布拡大状況調査(環境省)
- 2) 種別狩猟免許取得者数(環境省)
- 3) 耕作及び作付面積統計(農林水産省)
- 4) 遊林農地の実態と今後の活用に関する調査(全国農業会議所)(平成10年)